

令和4年度

北海道教育大学

附属函館幼稚園だより

NO. 15【号】



第52回 ご卒園の18名の皆さん！

ご卒園本当におめでとうございます

副園長 藤谷 毅

あたたかな陽ざしが園舎の赤い屋根に反射し、日一日と春めいてきています。卒園する子供たちを前にすると、嬉しさ半分、寂しさ半分の複雑な季節がまた訪れました。今年度も新型コロナウイルス感染症に振り回されることの多い1年ではありましたが、本園の活動・対応にご理解やご協力、そして多くのご支援を賜りましたこと深く感謝申し上げます。今年度は運動会、お遊戯会の幼稚園二大行事を人数制限のある中ではございますが、保護者の皆さんにご覧いただけたのが今年一番の喜びでした。そんな中、ゆき組の子供たちの進学への期待と夢にあふれた顔に、確かな成長と、未来の課題解決に果敢に挑む挑戦者の姿を感じます。ご卒園本当におめでとうございます。

3年前に入園してきたみなさんは、比較的登園に渋ることも少なく、毎日元気で楽しそうに登園してくるというのが最初のイメージでした。みんながみんな個性的で、何をやるにも一生懸命取り組んでいましたね。また発想も面白く、皆さんの様子を見ているだけでついつい笑顔がこぼれてしまうクラスでしたね。そして優しいクラスでした。誰かが困っていると優しく声をかけてあげられるクラスでした。はな組の間に3名転園し、1名入園してきましたね。



つき組(年中)になるときに2名転園してしまい寂しい気持ちとなりましたが、担任が滝谷先生から西山先生へと変わるとともにクラスの空気感も変わって更なるパワーアップ。「あれ？君たちってこんな一面もあるのね」と驚かされましたよ。

ゆき組(年長)になるときにはさらに2名を加え、良い感じで化学反応を起こし素敵なクラスになっていきましたね。ゆき組(年長)では最上級生としての自覚が生まれ、同級生

や下級生への優しさをもった行動ができるようになり、「自分たちなら出来る」というプライドをもった行動が出来るようになってきましたね。今年に入りさらに1名を加えゆき組18名は日一日と変化し成長する姿を楽しむことのできた3年間でした。

そして卒園される皆さん。卒園される皆さんは卒園してもいつまでもいつまでも、この附属函館幼稚園の子供です。小学校で楽しいとき、嬉しいとき、悲しいとき、困ったとき、元気がほしいとき、いつでも幼稚園を尋ねてきて下さい。待っていますよ。

結びになりますが、これまでのゆき組の保護者の皆様のご協力やお力添え、アイデアによって、無事子供たちを笑顔でお預かりすることができました。本当に感謝申し上げます。そして、様々な面で大変お世話になりました。紙面を借りてではございますが深く御礼申し上げます。

